

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：スポーツ振興対策費

事業名 ウッドチップランニングコース維持管理費（自然公園遊歩道）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

清流の国推進部 地域スポーツ課 スポーツ施設係

電話番号：058-272-1111（内 2929）

E-mail：c11172@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 205 千円 （前年度予算額：205 千円）

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|-----|------------|------------|------------|------------|-----|-----|-----|------------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財 産 収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 前年度 | 205 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 205 |
| 要求額 | 205 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 205 |
| 決定額 | 205 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 205 |

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアの活用は、清流の国ぎふ2020プロジェクトの重点事業に掲げており、その一施設であるウッドチップランニングコースは重要な施設である。

（2）事業内容

ウッドチップランニングコースの維持管理を行う。
また、利用者の万一の事故等に備えて、賠償責任保険に加入する。

（3）県負担・補助率の考え方

県が設置した施設の整備であり、県による対応が必要。

（4）類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|------|-----|-----------------------|
| 旅費 | 121 | 業務旅費 |
| 役務費 | 15 | 通信運搬費、賠償責任保険加入料 |
| 使用料 | 69 | ウッドチップランニングコース 国有林使用料 |
| 合計 | 205 | |

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

清流の国ぎふ2020プロジェクトの重点事業(飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアの活用)

飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアにおけるハード整備事業計画

(2) 国・他県の状況

国の補助事業は無い。

(3) 後年度の財政負担

継続的な活用を図るため、改修、補修の維持管理が必要。

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体：県

県が設置した施設の整備であり、県による対応が必要。

事業評価調書

■ 新規要求事業

□ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアの利用者数の拡大を図る。
国内外のトップアスリートの合宿誘致を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

| 指標名 | 事業 開始前 | 指標の推移 | | 現在値 (前々年度末時点) | 目標 | 達成率 |
|---------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|-------|
| エリア利用者数 | 21,215人 (H24) | 28,988人 (H29) | 28,321人 (H30) | 26,592人 (R1) | 30,000人 (R3) | 88.6% |

○指標を設定することができない場合の理由

(前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
高地トレーニングエリアへの合宿誘致活動の実施
高地トレーニングエリアパンフレットの改訂

(前年度の成果)

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 - ・日本陸上競技連盟をはじめとする日本代表が合宿を実施
日本陸上競技連盟、男子レスリングフリースタイル、
全日本テコンドー協会、女子柔道日本代表個別分散合宿、
日本パラトライアスロン連合、日本肢体不自由者卓球協会 等
陸上競技以外の格闘技系の競技やパラ競技の利用も増加。
 - ・青山学院大学、立命館大学等陸上中長距離強豪チームが合宿を実施

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

| | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い | |
| (評価) | ○ |
| 東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催を見据え、飛騨御嶽高原ナショナル高地トレーニングエリアへの国内外のトップアスリートや強豪チームの合宿を誘致し、同エリアのブランド価値を高め、“スポーツの聖地”づくりを推進する必要がある。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない | |
| (評価) | ○ |
| 当エリアの新規活用もあり、利用人数は増えている。また、国内外のトップアスリートのエリア活用により、PR効果が出ている。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある | |
| (評価) | ○ |
| ターゲットを絞った活動を展開するなど、誘致・PR効果が高い方法により事業を実施している。 | |

(今後の課題)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 英国、仏国以外の国のトレーニング合宿の誘致、受け入れ側にとって無理のない受け入れ体制の整備が課題となっている。 |
|---|

(次年度の方向性)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた選手強化を図る拠点施設として、国内外から多くの利用者の誘致を図るため、次年度以降も積極的に誘致・PR活動を行い、エリア利用者の拡大を図る。効率的かつ有効な誘致活動として、海外トップアスリートが一同に会する世界大会での誘致活動を引き続き実施する。 |
|---|

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

| | |
|------------------------|---|
| 組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 | — |
| 組み合わせて実施する理由や期待する効果 など | — |